

卒業生ア・ラ・カ・ル・ト

「高島俊男コーナー」を設置

平成21年3月24日、東高7回生有志の皆さんが同級生の高島俊男さんの著書59冊を東高へ寄贈されました。

今回の寄贈の発端は、1年半前にさかのぼります。総合雑誌「文藝春秋」の人氣コーナー「同級生交歓」に高島俊男さんとともに福本正明さん、亀山節夫さん、藤堂彰男さんの7回生4人が登場。東高の屋上で世界遺産・姫路城をバックに写された写真に収まり、平成19年12月号に掲載されました。その際に同級生から高



校長室で寄贈を受ける

島氏の著作を学校に寄贈したい旨の申し出があり、それが今回の贈呈へと実を結んだのです。寄贈の申し出から1年半の間に高島さんは新刊を5冊上梓。関係者はインターネットや古書店をめぐり、過去の著作を収集し、全作品が揃いました。贈呈当日は、7回生幹事の福本正明さんが「風刺の効いたさくばらんなエッセーで一世を風靡し、全国に根強いファンを持つ高島さんの世界を味わっていた

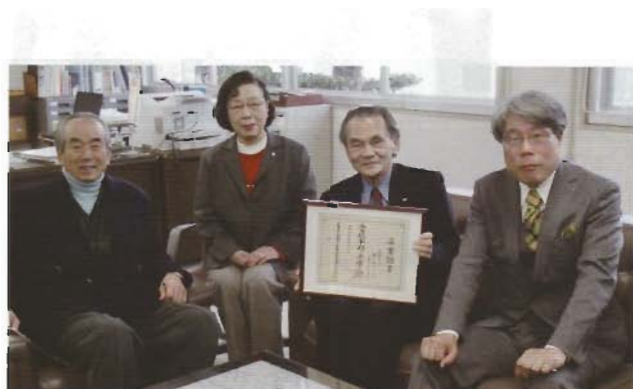
だきたい」とあいさつ。図書室の一角にコーナーを設置し、生徒・職員に披露しました。

◆高島俊男さん（東高7回）

1937年、相生生まれ。1955年、姫路東高を卒業。東京大学で経済学・文学部中国文学を専攻。さらに同大学院を卒業し、岡山大学法文学部助教授を経て在野の研究者となる。



1991年、「水滸伝と日本人 江戸から昭和まで」で大衆文学研究賞受賞。1995年、「本が好き、悪口言うのはもっと好き」で講談社エッセー賞を、2001年に「漱石の夏休み 房総紀行」「木屑録」で読売文学賞を受賞。「漢字と日本人」で日本語における漢字の問題点を論じて話題となったほか、李白と杜甫を比較して論じた「李白と杜甫」など研究者として高い評価を得ている。



寄贈下った井上さん（右から2人目）

県女二期生の「卒業證書」を受贈

平成21年3月3日（火）、鳥取市在住の井上勲さん（東高3回）から、ご母堂井上まさあさんの「県女二期生卒業證書」の寄贈を受けました。

当日は、校長をはじめ関係の先生方、東生会から堀田哲郎常任幹事（東高3回）が校長室で井上さんを迎えました。額縁に納められた「卒業證書」は、戦災で多くの資料を焼失した母校にとって極めて貴重なもの。創立百周年を迎える記念の年に、嬉しい贈り物でした。

二重の喜びの日



百周年記念館起工式の日平成21年4月4日（土）。式の終了後、東生会館を出たところに華やかな和服の二人の姿がありました。

「これは何事？」と話をうかがってみると、お二人は東高54回生の安積希真さんと中谷佐和子さん。ご両人は5月30日（土）に結婚式を控え、写真の事前撮影の場所にも母校を選んだとのことでした。この記念すべき日に東高を訪ねてくれたお二人、お幸せに！